

伊丹想流私塾第17期生公演

door

1年間、北村想塾長のもと筆力を磨いてきた10名の劇作家の卵たちによる“卒塾公演”。今回のお題は「舞台にドアがひとつ」。ドア(扉)にまつわるショートストーリー10篇を、関西で活躍する俳優の協力のもと、連続上演します。次代を担う新しい才能の登場にご期待ください。

【日時】

平成25年**5月18日(土) 19:00**、**19日(日) 14:00**

※受付開始40分前、開場20分前

【料金】

前売1,500円 当日1,800円

(全席自由)

【会場】

アイホール(伊丹市立演劇ホール)

〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1



【チケット取扱・お問合せ】

アイホール

TEL:072-782-2000(火曜日休館)

メール:info@aihall.com

URL:http://www.aihall.com

※事務所窓口でも取り扱っております。

【主催】

公益財団法人伊丹市文化振興財団・伊丹市

AI・HALL

【監修】北村想

【総合演出】高橋恵(虚空旅団)

【演出】

林慎一郎(極東退屈道場)

高橋恵(虚空旅団)、中村賢司(空の驛舎)

小原延之

【作】

伊丹想流私塾第17期生／

石塚理絵、内越恵美、岡田りく

久保田智美、田窪泉、堂前奈緒子

ネゴロチヒロ、はやま。、増田雄、山本彩

【出演】

あらいらあ、イトウエリ(手のひらに星)

小笠原聡、小畑香奈恵(宴劇会なかつぎ)

門田草(Fellow House)、後藤七重、猿渡美穂

末永直美(VOCE企画)、得田晃子、橋本浩明

古谷ちさ(空晴)、松原一純(A級MissingLink)

森田真和、吉川貴子 (50音順)

【スタッフ】

舞台監督:河村都(CQ)、照明:杉野信次(エスエフシー)、

音響:今里愛(エスエフシー)

ほんらい、ドア(扉)というものは、隔てるものというより、「それを開けてみたい」という願望を誘うものとして存在する。というふうにかんがえることも出来る。だから「開かずの間」という意味ありげな部屋があったりして、ホラーやミステリにはよく登場する(不条理ドラマという名のもとに、若い劇作家がてめえのノータリンを誤魔化するための戯曲に用いられることもある)。私たちが、今回この扉(door)をmotifにして、またthemeとしたのには何の根拠もナイ。こともなくて、舞台美術の予算が安くすむということと、転換が早く出来るという簡便さからだ。そういうとやや投げ出しの決め事のように思われるが、そうではナイ。舞台美術を固定することによって、逆にそれをしばりとして、dramaを考える(今度は漢字になっているのは、もちろん使い分けているからなのだが)、のも戯曲創りの有効な方法だと思えるからだ。このdoorをどういうふうに使ってもいいからというならば、『どこでもドア』ではなく『どうでもドア』だ。ちょっとキザにこの文章を終わらせるとするならば、観客は、このドアを開けに、劇場に足を運ぶということになる。ドアの向こうは光か闇か、寢室か便所か。「開けてみたい」という願望は、開けるものの願望と一致する。ともかくも舞台にはdoorがひとつだけ、存在する。 北村想